

季刊

# 博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM  
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

# 72

—春の企画展—

## 戊辰戦争といま

### 福島県立博物館



奥羽越列藩同盟旗  
(宮坂考古館)

現在でも、会津にとつての戊辰戦争は、内外から注目的です。そのため、歴史研究の対象としてだけではなく、小説やマンガにも数多く取り上げられました。これは、戊辰戦争の具体的な知識を共有する者の増加には寄与したと言えましょう。反面、多くの出版物のなかには過度な脚色を施したものも現れ、客観的な事実が不明確になってきてはいないでしょうか。本企画展の第一の目的は、会津を越えて福島県内における戊辰戦争とは、どのようなものであったのかをできる限り正確に描き出していくことにあります。こうした目的で最もよく使用される史料は、錦絵や絵図等のビジュアル的な史料です。しかし、こうした史料の中には戦闘直後に作られたものであるにもかかわらず、既に事実と異なる描写がなされているものがあります。このような点にも注意を払いながら、見ていきたいと思えます。

近代や現代の会津にとつての戊辰戦争は、敗者に付随する苦難の道りや観光資源として大きな影響力を持っていました。その結果としては、当地域で生きる人々のアイデンティティー形成にまで関与したと言うことができるでしょう。本企画展の第二の目的は、近代・現代の会津と戊辰戦争との関わりを、描き出していくことにあります。

ただ、今日までの福島県内における戊辰戦争に関する研究は、著名人を取り上げることが多く、個人の顕彰が中心となっていたのではないのでしょうか。その結果、戊辰戦争と地域や一般民衆との関係が取り上げられることがあまりありませんでした。そのため、戊辰戦争の中心となつた会津の歴史研究という戊辰戦争であり、その中心に白虎隊があり、鶴ヶ城があるというように歴史研究の対象が偏っていたように思えます。

今回の企画展では「地域」や「民衆」に注目して、私たちの身近な地域での戦闘等はどうに行われたのか、また、地域に生きていた人々と戊辰戦争との関わりを積極的に取り上げたいと思います。戊辰戦争の戦闘は、福島県内の各所で行われました。そうした戦闘には、道案内や

## —春の企画展—

# 戊辰戦争といま

●会期 平成16年4月17日(土)～6月13日(日)



河原田包彦所用陣羽織 照国寺



農兵着用陣笠 渡辺田鶴



農兵着用胴丸 渡辺田鶴

荷物の運搬に始まり、多くの民衆が動員されました。動員された者たちは、農業や商業といった自らの職を放棄して命ぜられた任務をこなさざるを得ませんでした。しかし、民衆の中には以前から戦争を待望し続け積極的に参加する者もいました。たとえば、会津においては戦国大名、葦名家の旧臣たちが組織的に会津藩の農兵として戦いました。つまり、民衆の中には、無理矢理動員させられた者もいれば、反対に積極的に参加した者もいたのです。「民衆」と言ってもその立場によって、戊辰戦争への関わり方は異なりました。

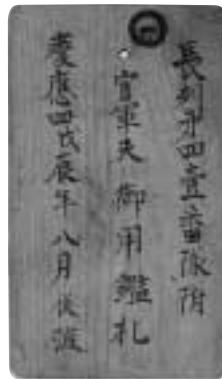
戊辰戦争とはどのような戦争であったのかをもう一度見直し、戊辰戦争を通して私たちをもう一度見直す場であればと思います。



醍醐殿御休札 遠藤精吾



九条殿御休札 遠藤精吾



官軍鑑札 遠藤良久



農兵着用手甲 渡辺田鶴

### 企画展関連行事のお知らせ

#### 企画展記念講演会

「白虎隊はどのように語られてきたか」

講師 後藤 康二氏

(会津大学 文化研究センター)

日時 四月二十五日(日)午後一時三十分より

場所 当館講堂

#### 企画展展示解説会

講師 当館学芸員

日時 四月二十五日(日)講演会終了後

六月二三日(日)午後一時三十分より

場所 企画展示室

企画展チケットが必要です。

企画展《戊辰戦争といま》は平成一六年四月一七日(土)から六月三日(日)まで開催しています。  
 企画展観覧料 一般・大学生五〇〇円(四〇〇円) 高校生三〇〇円(二四〇円) 小・中学生二〇〇円(一六〇円) ( )は二〇名以上の団体の場合の料金です。

# 部門展示「県土の形成」

## 展示替え

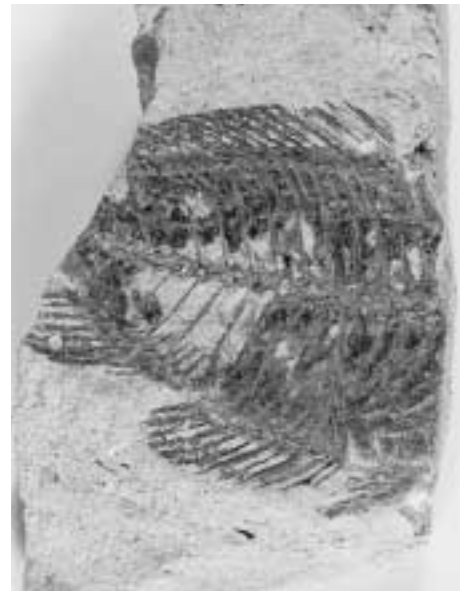
昭和六一年にオープンした県立博物館は、今年で一八  
年目を迎えました。開館当初は一万七〇〇〇点余りだっ  
た収蔵資料が、現在ではほぼ一〇万点に達しています。  
これは、県民の皆様からの寄贈や寄託など、博物館に貴  
重な資料を提供していただいたからにはかなりません。  
しかしながら、当館の常設展示は開館以来大きな変更は  
なく、展示資料を少しずつ入れ替えてきた程度でした。

県内の化石や岩石・鉱物などの自然史資料についても、  
その質・量ともかなり充実してきました。研究の結果  
その中には、本県の自然史を明らかにする上で重要な資  
料が多々あることがわかりました。昨年の末に、自然部  
門展示「県土の形成」の展示資料を大幅に入れ替えまし  
た。展示資料

は約二〇〇点  
増え四三五点  
となり、その  
うち八割近く  
が新しい資料  
です。  
展示構成そ  
のものは以前  
と変わりませ  
ん。時代の古  
い方からそれ  
ぞれの時代を  
代表する化石  
・岩石・鉱物  
を展示してい  
ます。新たに



ギンザメ 左：上あごの一部（原田和男氏寄贈）  
右：下あごの一部（高橋紀信氏寄贈）



チョウチョウウオのなかま（斎藤満国氏寄贈）

展示した標本のうち、特筆すべきものをここでご紹介  
します。

太平洋岸の相馬市から原町市にかけて分布する中生代  
ジュラ紀中期～白亜紀初期（約一億四〇〇万～一億七  
〇〇万年前）の地層からたくさんアンモナイト化石  
が見つかっています。このたび、浜通りにお住まいの化  
石研究家のみなさんからアンモナイトを「提供いただき、  
代表的な標本を展示しました。相馬地域からこれまで報  
告されていないものがたくさんあり、しかも三つの新種  
が含まれています。

フタバススキリュウの全身骨格を中心とした白亜紀の  
コーナーでは、いわき市大久町鶴房から発見されたギン  
ザメのあごの化石を新たに展示しました。ギンザメは、  
デボン紀から現在まで生きてきたサメの種類で、本県で  
は初めての発見です。この化石はギンザメの進化を知る  
上でたいへん貴重なものです。

新生代では、今からおよそ一五〇〇万年前に生きてい  
た不思議な哺乳類、パレオパラドキシアの全身骨格を展  
示しました。この化石は一九八四年に梁川町の広瀬川河  
床で発見され、その後、同町のご厚意により当館へ寄贈  
されたものです。全身の骨格が発掘されたものとしては

日本で四例しかありません。当館では十数年をかけて標  
本の研究を行い、骨格の復元にこぎつけました。  
西会津町熊沢に露出する今から約一二〇〇万年前の地  
層から、ほぼ全身の骨がはつきりと残ったみごとな魚類  
の化石が二体発見されています。チョウチョウウオのな  
かまとスズメダイのなかまです。いずれも新種と考えら  
れています。  
このほか、たくさんの新発見の標本が展示しており、  
以前よりもかなり見応えがあります。常設展示は何度も  
見たという方にも新たな発見があると思います。ぜひこ  
来館ください。

専門学芸員 竹谷陽一郎



パレオパラドキシア骨格（復元）

# わら人形をつくる

会津に残された最後の行事

榎 陽介 民俗担当

平成一四年も押し詰まったころ、三島町交流センターやまびこの学芸員五十嵐政人さんから柳津町胄中（かぶちゆ）に人形を作る行事が残されているらしい、という情報がもたらされた。

現在も新潟県東蒲原郡には「シヨウキサマ」という行事が残されている。二月はじめころわらで人形を作り村はずれなどに奉納するというものである。会津にもかつては何ヶ所でも行なわれていたことが分かっている。今も昔の思い出として話を聞くことはできる。しかし、現在ではどこにも残されていないのである。ただ、当館で一〇年以上も前に企画された展覧会「境の神風の神」で新鶴村市野のものなどが再現されただけなのだ。そうした「幻」といってよい行事が残されているならば、これは見ないわけにはいかない。そうして平成一五年二月二日に出かけていったのである。

行事は「ニンギョウマンギョウ」と呼ばれていて、男女各一体、計二体の人形を作るといふものである。雪景色の胄中集落の一番奥で作業は行なわれていた。現在、人形は十字型に細木の心棒を入れ、それにわらを巻いて作っている。両足は



完成したわら人形 左が女性、右が男性

中に硬いものが入っていないので、折れるようになっていく。

男女は途中までは同じように作られる。

異なってくるのは第一に持ち物である。女は薙刀を手にし、帯には懐剣をさす。

男は弓矢を持ち（弓は杉の枝だという）、大小を腰にさす。男女とも両手両足は五本の指が作られる。頭には「お正月様」と呼んでいるしめ縄が鉢巻としてつけられる。

腰には帯が巻かれる。現在には心棒を通しているが、かつてはかやを束ねたものを心にし、各家から子供たちが集めた納豆のわらつとを化粧として上に巻いたのだという。このため、納豆の強烈な匂いがして、嫌いな人には絶えられないような程であったという。

そして男女それぞれに生殖器の誇張した表現がある。これなど東蒲原郡の人形たちと共通している。作業は村の人が楽しそうに笑いあって進んでゆく。

作業は数時間で終わり、人々は家に帰って夕食をとる。そして、夜六時半過ぎに集まり始め、焚き火が炊かれる。集まってきた人は割り箸を人形に刺す。自分の悪いところと同じところに刺すと良くなるといわれている。かつては夕食に小豆飯を秋の箸で食べ、その箸を刺したのだという。夜七時に両方の人形に点火される。火をつけるのは厄年の人で、都合が悪ければ代理の人になる。

さて、ここでこの行事のことをじっくり考えてみよう。二月二日に人形を作り焼くという行事であり、人々に聞いても昔からこうしていると答えが返ってくる。しかし、高齢の方の中にはもっと異なる話をする方もいる。それ



わりばしをさす

によると、本来は男女の人形を集落の上の高台で作り、子供たちが松明をかけた「ニンギョウウマンギョウウ送れや、納豆ツトツコも送れや」とはやし、四二や二五の厄年の男や婿に入った男が担いで集落の上と下の所定の場所まで運んでいったのだという。人形はかつては上では桐の木に立てかけ、下では湯殿山の石碑のところに置かれたという。もちろん大きく重たいので、一人では担ぐことはできないので、他の人も手伝ったものだという。地区の上に男、下に女となっていた。この人形たちはそのままにして置かれたのだという。ところが、昭和五年ころ、この人形は性器表現があるので、巡査が「風俗を乱す、不潔だ」と言い出し、それなら、ということで行事終了後に燃やしてしまったという。最初に燃やしてしまったときの話を覚えている方もいる。以上のような話を聞くことができた。もしそうならば、新潟に残されている人形たちや、会津の現在はやめてしまった人形たちと共通することになる。

しかし、地区の多くの方々の記憶には「燃やす」わら人形というものが強く残っている。実際のところはどうか。まだまだ探求すべき「謎」は残されている。

新潟県から会津にかけて分布している行事の会津側での唯一の生き残りといつてよい柳津町胄中のニンギョウウマンギョウ。いつのころからか、こんな貴重で素敵な行事があまり注目されることもなく行なわれ続けてきたのだ。



燃えさかる人形を見る人々

Q：博物館の常設展示にガラスの玉がありましたがい  
つたいどうやって作ったのですか？

A：会津若松市の会津大塚山古墳から出土したガラス玉  
のことですね。古墳に副葬されたガラス玉の作り方は、  
主に三種類の方法が知られています。

一つは、「巻き付け」で作る方法です。泥や灰などを  
塗った芯棒に、火で焙<sup>あぶ</sup>って軟らかくなったガラスを巻き  
付け、最後に抜き取れば完成です。大きなホームセンタ  
ーに行くと、誰でもこの方法でガラス玉が作れるキット  
が販売されていますので、ぜひ挑戦してみてくださいか  
でしょうか。また、色々な模様が美しいトンボ玉もこの方  
法を応用して作ります。

二つ目は、たこ焼き器に似た「鑄<sup>い</sup>型」を使うやり方

## 古墳時代の ガラス玉

す。凹みの中心に細い芯を立ててガラスの層を詰め、鑄  
型ごと熱して溶かします。

三つ目は「管切り」という方法です。ガラス工房を見  
学すると、溶けたガラスを口でフウと吹いている場面を  
よくみかけます。これを宙吹き法といいますが、この宙  
吹き法を使って長い管を作り、その管を玉の大きさに切  
るやり方です。会津大塚山古墳のガラス玉はすべて「管  
切り」で作られているようです。

Q：どうやって見分けるのですか？

A：ガラス玉をよく観察すると、内部にたくさんの空気  
の泡が残っています。これは冷凍庫の氷と同じように、  
ガラスが冷えて固まった際に閉じこめられたものです。  
実は、この空気の泡の状態が、三種類の作り方の違いを

見分ける大きなポイントになります。

具体的に言うと、「巻き付け」で作った玉には孔の周  
囲を回るように、「管切り」で作った玉には孔と平行に、  
それぞれ空気の泡が延ばされていることが観察できます。  
これに対し、「鑄型」を使って作った玉には空気の泡が  
全体に粒のまま残されているのです。それぞれの違いは、  
溶けたガラスから玉を作るときにガラスを延ばした方向  
に関係があります。つまり、ガラスを引き延ばすことの  
ない「鑄型」を使えば空気の粒は動かない訳です。

Q：もちろん日本国内で作っていたんですよね？

A：それが、そうでもないことが分かってきています。  
「鑄型」で作られたガラス玉は、鑄型そのものが遺跡か  
ら出土しますので、まず間違いなく日本国内で作られた

### Q & A

回答者  
考古担当  
横須賀倫達

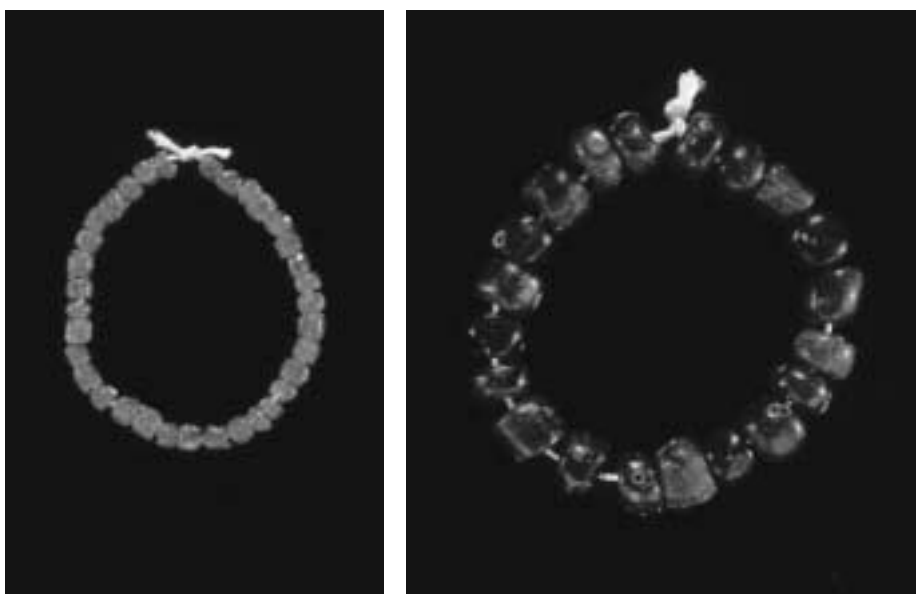
ものといえます。また、「巻き付け」で作る方法は技術  
的にも簡便ですので、国内生産は十分可能でした。とこ  
ろが、「管切り」という方法は、宙吹き法という難しい  
技術が必要となり、古墳が造られた時代の技術水準では、  
この方法でガラス玉を作ることは難しかったと考えられ  
ます。

そもそも、ガラス玉の原料そのものに、日本では産出  
しないコバルトなどの成分が含まれている例が多くあり、  
ガラス玉やガラスの原料が海外から運ばれてきた事は確  
実といえるのです。

Q：では、どこから運ばれてきたの？

A：どこから運ばれたかについては、まだよく分かって  
いません。また年代によっても異なることが予想されて

います。ただ、古墳時代に輸入されたガラス玉の大部分  
は、原料に含まれる成分などから、東南アジアや南アジ  
アが有力な候補の一つとして考えられています。  
博物館に展示してあるガラス玉も、遠く海を渡り、会  
津大塚山古墳に副葬された可能性が高いといえます。当  
時のガラス玉は、有力者のみが持ち得た、まさに宝石だ  
ったのです。



会津若松市会津大塚山古墳出土のガラス玉（当館常設展にて展示中）

# トピックス

博物館から歴史を学ぶ 福島県立博物館移動展

県立博物館では、皆さんのお近くで収蔵品の一部をご紹介する移動博物館を行っています。白河会場、三春会場に続き、今回は原町市にうかがいます。県立博物館の収蔵品約九万五千点の中から、原始から近代までの史料約二〇件を四つのコーナーに分けて選び、ご紹介いたします。以下の四コーナーに並ぶ歴史の証人から、福島の歴史を身近に感じていただきたいと思ひます。

出土考古遺物による…「土の中からよみがえる歴史」  
 文書・書状等による…「書き記された歴史」  
 信仰に関わる美術工芸品による…「祈りの歴史」  
 農具などの道具による…「道具の歴史」

## 主な展示作品

「土の中からよみがえる歴史」

- 縄文土器深鉢（新地町 三貫地貝塚出土）
- 埴輪 琴を弾く人物（泉崎村 原山一号墳出土）
- 双魚袋金具（鹿島町 真野古墳群出土）
- 郡符木簡（いわき市 荒田目糸里遺跡出土）（複製）

「書き記された歴史」

- 豊臣秀吉朱印状（蒲生郷成宛）
- 九戸出陣陣立書
- 泉家文書
- 福島飯坂堀切家文書
- 会津歌農書

「祈りの歴史」

- 福島信夫山出土品
- 銅鉢（八槻都々古別神社蔵）
- 十二天図（恵日寺旧蔵）
- 中尊寺経
- お人形様（西会津町）



豊臣秀吉朱印状（蒲生郷成宛）



泉家文書



郡符木簡（いわき市荒田目糸里遺跡）

## 「道具の歴史」

刺子（南郷村）  
 ナンバ（会津若松市）  
 大足（飯館村）

期日	四月二四日（土）～六月六日（日）
会場	野馬追の里原町市立博物館 〒九七五 〇〇五一 原町市牛来字出口一九四番地 TEL 〇二四四（三）六四二二 FAX 〇二四四（二四）六九三三
休館日	毎週火曜日・五月六日（木） 五月四日は開館
開館時間	九時～一六時四五分 （最終入館は一六時まで）
入館料	一般三〇〇円、高校生二〇〇円、小中学生一〇〇円

## 夏の企画展予告

# アートオブ スター・ウォーズ展 エピソードⅠ・Ⅱ＋α

一九七七年、ジョージ・ルーカス監督によりこの世に送り出された「スター・ウォーズ」シリーズは、冒険ファンタジーとして全世界の人々に熱狂的に受け入れられました。中世騎士の神秘的な世界と誰もが見たことのない科学技術の融合、そしてなによりも装置、小道具、衣装などすべての面において、「芸術的」な精神により統一されたデザイン。この魅力的で壮大なファンタジーは、ⅣからはじまりⅤ・Ⅵと進み、次にさかのぼってⅠ・Ⅱが公開され、最後のエピソードⅢの完成が待たれているところです。

県立博物館ではエピソードⅠ・Ⅱを中心として夢のようなめくるめく未来世界の展示を創りだします。「スター・ウォーズ」の展示会は福島県が全てのコレクションを公開する最後の場所になります。奥深い歴史の積み重なった伝統のまち会津での華やかなスペースファンタジーの展示会。二つの異質な世界の融合から生み出される不思議な感動をお楽しみください。



アミダラの王座の間のガウン

©2004 Lucasfilm Ltd. & TM. All Rights Reserved.

夏の企画展「アートオブスター・ウォーズ展 エピソードⅠ・Ⅱ」は平成一六年七月三日（土）から九月二六日（日）まで  
 企画展観覧料 一般・大学生一四〇〇円／中・高校生一〇〇〇円／小学生五〇〇円

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「装身具 和のおしゃれ心」  
 会期 四月二三日(火)から五月二三日(日)まで  
 「画題で見る美術 見るものがたり」  
 会期 六月一日(火)から七月二一日(日)まで

講演・講座

歴史講座

「古文書入門1 保管と修復」(見学会)  
 講師 当館学芸員 松田隆嗣  
 日時 四月二四日(土)午後一時半～三時  
 「古文書入門2 近世」(実技)  
 講師 当館学芸員 酒井耕造  
 日時 五月一五日(土)午後一時半～三時  
 「古文書入門3 近世」(実技)  
 講師 当館学芸員 酒井耕造  
 日時 六月二二日(土)午後一時半～三時

民俗講座

「神楽と早乙女踊り」  
 只見町梁取地区の芸能  
 (上映・解説会)  
 講師 当館学芸員 榎 陽介  
 日時 五月二日(土)午後一時半～三時

美術講座

「暮らしの中の美術」  
 長寿を願う 神・仙人  
 講師 当館学芸員 川延安直・小林めぐみ  
 日時 五月一九日(水)午後一時半～三時  
 「暮らしの中の美術」  
 吉禎<sup>2</sup>  
 講師 当館学芸員 川延安直・小林めぐみ  
 日時 六月一六日(水)午後一時半～三時

自然史講座

「シリーズ自然史1 化石をさがそう」  
 (野外)  
 講師 当館学芸員 竹谷陽二郎  
 日時 五月二二日(土)  
 午前八時半～午後四時  
 「シリーズ自然史2」  
 化石標本をつくらう(実技)  
 講師 当館学芸員 相田 優  
 日時 五月二三日(日)午後一時半～三時半

考古学講座

「縄文時代の編物に挑戦」(実技)  
 講師 当館学芸員 横須賀倫達  
 日時 六月二六日(土)午後一時半～三時  
 特別講座「風土の文化誌」  
 「口高見国と日本の国」  
 東国エミンの国とみちのくエミンの国  
 講師 当館名誉館長 高橋富雄  
 日時 五月二八日(金)  
 午後一時半～二時半

「東北」南と北

「阿武隈の国」と「北上の国」  
 講師 当館名誉館長 高橋富雄  
 日時 六月二五日(金)  
 午後一時半～二時半

企画展記念講演会

「白虎隊はどのように語られてきたか」  
 講師 会津大学文化研究センター  
 後藤 康二さん  
 日時 四月二五日(日)午後一時半～三時

企画展展示解説会

講師 当館学芸員  
 日時 四月二五日(日)講演会終了後  
 六月二三日(日)午後一時半～二時半

木曜の広場

場所 講堂 入場無料

四月から、館長赤坂憲雄の講座が開講します。

会津学事始め 四季の生業と暮らし

第一回

「会津農書の世界」  
 日時 四月八日(木)午後一時半～三時

第二回

「会津風俗帳の世界」  
 日時 五月一三日(木)午後一時半～三時

第三回

「田植え」  
 日時 六月三日(木)午後一時半～三時

実演

場所 体験学習室 入場無料

「昔語り」

語り部 山田登志美さん  
 日時 四月一八日(日)

午後一時半～三時

語り部 横山幸子さん  
 日時 五月二日(日)午前二〇時半～正午

「会津の唐人風づくり」  
 技術伝承者 鈴木英夫さん  
 日時 五月三日(月・祝)

午後一時半～三時

「紙芝居」

紙芝居作家 五十嵐邦子さん

日時 五月四日(火・祝)  
 午後一時半～三時

伝統技術実演

「須賀川の絵のぼり」  
 技術伝承者 大野修司さん  
 日時 五月五日(水・祝)  
 午後一時半～三時

やさしい展示解説会

\* 展示解説員による常設展の案内です。  
 \* 毎週土曜日午後二時から(三〇分間)  
 毎週日曜日午前二時から(三〇分間)と午後二時(六〇分間)からです。

\* 行事等の詳細に関しましては、博物館「二」  
 ースやホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

五月五日(こどもの日)

四～六月の休館日

四月 五月(月)・二日(月)・一九日(月)・  
 二六日(月)・三〇日(金)  
 五月 六日(木)・一〇日(月)・一七日(月)・  
 二四日(月)・三一日(月)  
 六月 七日(月)・一四日(月)・二二日(月)・  
 二八日(月)

\* 小・中学生、高校生は常設展を無料で  
 ご覧いただけます。